

令和7年度 第1回 小牧市健康づくり推進審議会 議事録

日 時	令和7年5月14日（水） 14時00分～15時10分		
場 所	小牧市役所 東庁舎 大会議室		
出席者	【委員】（名簿順）		
	高野 健市	小牧市医師会会長	
	三輪 雅一	小牧市医師会副会長	
	竹内 友康	小牧市歯科医師会会長	
	堀尾 恭正	小牧市薬剤師会副会長	
	小島 英嗣	小牧市民病院副院長	
	寺本 圭輔	愛知教育大学保健体育講座教授	
	夏目 有紀枝	名古屋経済大学人間生活科学部准教授	
	澁谷 いづみ	春日井保健所長	
	土屋 一義	小牧市地区民生委員児童委員連絡協議会	
	山田 勇	小牧市老人クラブ連合会副会長	
	清水 裕子	保健連絡員	
	加藤 陽子	一般公募市民	
	中島 早織	一般公募市民	
	青木 翔太	小牧市社会福祉協議会 総務課係長	
	柴本 大慈	全国健康保険協会愛知支部	
	林田 賢	市内企業労務担当	
	【事務局】		
	駒瀬 勝利	健康生きがい支え合い推進部長	
	永井 政栄	健康生きがい支え合い推進部次長	
	水野 清志	保健センター所長	
	三枝 尚子	保健センター所長補佐	
	小川 真波	保健センター 母子保健係長	
	森 里加	保健センター 成人保健係長	
	森下 大輝	保健センター 成人保健係保健師	
	藤井 めぐみ	保健センター 成人保健係保健師	
	中村 佳那	保健センター 成人保健係保健師	
	鈴木 尚紀	健康生きがい推進課長	
	倉知 佐百合	健康生きがい推進課 健康政策係長	
	宮田 祐子	健康生きがい推進課 健康政策係主査	
	田中 千月	健康生きがい推進課 健康政策係保健師	
欠席者	1名 佐藤 史洋 小牧市立小中学校長会		
傍聴者	0名		
配付資料	資料1 ヘルスラボ・こまきについて 資料2 令和7年度実施事業について 資料3 糖尿病対策専門部会の設置について		
1 開会 （1）あいさつ			
2 議題 （1）ヘルスラボ・こまきの運用の振り返りと今後の活用について（資料1により説明。資料以外の内容については下記の通り。）			
寺本委員） ・ グラフ4から、2回以上来館している方の割合が非常に少ないことが分かる。やはり、1年間で1回だけではなく、どのようにしたら複数回来館いただけるかを考え			

ることが大切だと思う。また、西部地区の来館者が少ないのはなぜなのか。

事務局)

- ・西部地区はヘルスラボ・こまきからの距離が遠くないことや、高齢化率も、他の地域と比べて高くないということを踏まえると、周知に課題があると考えている。引き続き、検証を続けていく。

澁谷委員)

- ・今の流れとして、街を歩いていけば自然と健康になれるような環境の整備が求められている。ヘルスラボ・こまきでは、積極的に来館している人を評価しているように思うが、市全体として、他の政策や環境の整備もあわせて、ヘルスラボ・こまきの位置づけを考えていく必要があると思う。

高野会長)

- ・澁谷委員が仰っているように、ヘルスラボ・こまきの来館者が増えることだけが重要ではないと思う。
- ・例えば、基礎データになるようなものとして、小牧山に歩きに来ている人がどれだけいるのかということなどを時々評価してみるのもいいと思う。東部地区の四季の森は、自然に健康を獲得していくためのツールであると思う。情報交換はしているのか。

事務局)

- ・小牧山に訪れる方の数は、担当の部署で把握をしている。一方で、四季の森もそうであるが、健康のために来ているかというところまでは、把握をしていない。
- ・ただ、市政全般として、歩くまちづくりを進めており、小牧山や四季の森以外にも、街中の歩道を広くして、歩けるようにしている。
- ・そのほか、ウォーキングアプリ alko を推進しているため、このようなツールも使いながら、歩く健康づくりをすすめていきたいと考えている。

土屋委員)

- ・ヘルスラボ・こまきの周知は広報で行っているのか。また、市の公式 LINE の健康のタブをみると、更新年月日が古くなっているため、更新を行っていただきたい。

事務局)

- ・ヘルスラボ・こまきについては、広報で周知を行った。さらに、4月に行った全員協議会でも PR をさせていただいた。しかしながら、多くの方から、まだ周知が足りないのではないかという意見をいただいているため、今後も引き続き周知を図っていききたいと思う。
- ・特に LINE については、7万人を超える方が登録をいただいているため、有効に使いながら、様々な健康施策について周知をしていきたいと考えている。
- ・また、先日、ラピオ内にヘルスラボ・こまきのポスターを複数枚掲示した。限られたスペースを上手く活用できる方法を検討しながら、周知を図っていききたい。

青木委員)

- ・毎日体操を行っているということで、継続して参加するという点においては、非常に有効であると思う。毎回多くの方が集まっているのであれば、集いの場としても有効だと感じる。
- ・人々が集まることによって、ヘルスラボ・こまきを継続して利用してもらえるのではないかとすると、大変良いことを行っていると思う。

事務局)

- ・毎日体操については開館日の10時30分からと17時からの1日に2回行って

おり、7秒スクワットやタオル体操など、時間によって内容を変えて実施している。

- ・ また、リピーターもいらっしゃると思う。ぜひ、周りの方にもお声がけいただきたい。

3 報告

(1) 令和7年度健康づくり関連事業について（資料2により説明。資料以外の内容については下記の通り。）

■ 高齢者単身世帯向け電気の使用量を活用したフレイル予防事業(e フレイルナビ)について（P1）

山田委員）

- ・ 地域包括ケア推進課を窓口としている65歳以上のひとり暮らし高齢者を対象とする高齢者登録制度に、約2,000人の方が登録されていると伺っている。この高齢者登録制度との連携は行うのか。

土屋委員）

- ・ 高齢者登録制度に登録された上、民生委員が定期的に訪問している方は対象外か。具体的に対象となる方について説明されたい。

事務局）

- ・ 令和6年の夏時点で、65歳以上のひとり暮らし高齢者の中で、要支援・要介護認定を受けて介護保険のサービスを受けている方と、世帯分離をしている方を除いて抽出したところ、おおそ5,000人となった。
- ・ あくまでも、eフレイルナビは、要介護状態に陥る前の段階で、保健師などの専門職が介入して食い止めるということが趣旨の事業になるため、見守りを目的とした高齢者登録制度と連携していない。
- ・ ただし、eフレイルナビの対象となる方の中でも、高齢者登録制度に登録がある方もいらっしゃると思うため、その方については民生委員の方に、引き続きご支援をいただくことになる。

土屋委員）

- ・ 老人クラブ等の高齢者が集まる会合で、eフレイルナビの口コミが広がると思う。個別に通知がなくても、申込みをすることはできるか。

事務局）

- ・ 65歳以上のひとり暮らしの方で、対象になる方であれば、受付可能である。

■ 高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施事業（重症化予防）について（P2）

山田委員）

- ・ 対象者の年齢について説明されたい。

事務局）

- ・ ①～③の該当者の中から、80歳以上を除くという形になるため、実際には75歳から79歳の方を対象にという事業になる。65歳から74歳の方は、国民健康保険の被保険者であるため、別でアプローチを行っている。

■ 女性の健康づくり支援事業について（P4）

夏目委員）

- ・ 小牧市内の20代・30代・40代の骨量が低い状態であると記載されている。例えば、アンケートを取り、小牧市ならではの課題があるようであれば、取組内容の中に入れていただければと思う。

- ・ また、市内の幼保小中高校における生と性のカリキュラム（※）の中で、若いうちに、最大骨量をあげておくことが大事であるということを伝えていただければと思う。
- ・ そのほか、ヤング健診に骨粗鬆症の検診が含まれていないようであれば、骨密度測定も入れていただければと思う。

※生と性のカリキュラム

小牧市の子どもたちの命と性をめぐる実態から、「生」と「性」を学ぶことで「心豊かにいきいきと生きる力を持つ子の育成」をめざし、平成19年度より市内小中学校で「小牧市生と性のカリキュラム」が実践されている。小学校1年生から中学校3年生まで、毎年、年代・課題に合わせた授業を実施。

「性」は「心＝人間らしくいきいきと共に生きる」、「生＝健やかなからだと尊いのちを大切にする」を表す。

事務局)

- ・ 現状、検査項目には骨密度測定を含めていない。しかし、年間4回の健診のうち、1回は骨粗鬆症の検診と同日に、同会場で開催をしているため、申込みいただければ測定可能である。
- ・ また、令和6年3月に小牧市健康づくり推進プランを策定した際、前計画の評価の時点で、朝食を毎日食べる人の割合が低い傾向があったため、このような課題と関連づけて、正しい知識の提供を推進していきたいと考えている。

（２） 糖尿病対策専門部会の設置について（資料3により説明。資料以外の内容については下記の通り。）

事務局)

- ・ 令和6年度に実施した世界糖尿病デーに関わる取組であるブルーライトアップキャンペーンについて、今年度は一般企業や当審議会の委員さんなど、市内各所でご協力いただきたいと考えている。

林田委員)

- ・ 当社においては、世界糖尿病デーに関する効果的な啓発PRと合わせて、ブルーライトアップについて提案できたらと思う。

三輪委員)

- ・ 当クリニックでは、世界糖尿病デーに合わせ、10年以上ブルーライトアップを続けている。通院患者は、あまり気にしていないようであるが。

事務局)

- ・ 令和6年度に市役所でブルーライトアップをした際は、職員に発信できる庁内掲示板を用い、ブルーライトアップの目的をお伝えした。すると、中には「なぜブルーライトアップをしているかわからなかったが、この内容を見て理解できました」と声をかけてくださる方もいらしかった。
- ・ こうした「なんだろう」と思ったところから、実はこの期間はこういう目的で行っていますということをお伝えすることで、理解が深まるのではないかなと思う。また、そのような認識が増えていくほど、ここは協力しているのだという周知が広まればいいと感じる。まだ始めたばかりであるが、引き続き市の中でも進めていければと考えている。

4 その他

- ・ 議事録を作成後、皆様に確認いただいたのち公表したい。
- ・ 次回は、11月19日（水）午後2時から開催予定。

5 閉会